

第37号

森

の通信

宮崎県総合博物館
発行日/平成16年11月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail: kyhakubu@pref.miyazaki.jp FAX(0985)24-2199

特 別 企 画 展

くろしお みなみ しま い
黒潮と南の島の生きもの

宮崎～琉球列島・海と森の生きもの大集合！



2004

10/9 土 11/28 日

(休館日:10/12・10/19・10/26・11/2・11/4・11/9・11/16・11/24)

この展示会では、宮崎県の気候や自然と深い関わりをもっている世界最大の海流「黒潮」をテーマに、宮崎から琉球列島の海や磯、森にすむ動物や植物について紹介しています。また、会場には、宮崎大学と宮崎海洋高校のみなさんによる「宮崎ミニ水族館」のコーナーもあり、宮崎の海の魚やエビ、カニなどをたくさん展示しています。

体験コーナーもサメにタッチするコーナー、貝や星の砂を探すコーナーのほか、スタンプを押しながらクイズに答える「スタンプ・クイズラリー」、ぬりえコーナーなどがあります。この秋は、黒潮が育む南の島から宮崎までの南方系の生きものたちにぜひ会いに来てください。

(黒木)

★体験コーナー



ジンベイザメと記念撮影



貝をさがそう！



サメにタッチ！



星の砂をさがそう！

★宮崎ミニ水族館



★ミュージアムトーク

「命輝く 黒潮の海と南の森の生きものたち」

講 師 新地昭彦氏 (宮崎の水中写真家)
演題「宮崎の海の世界と生きものたち」
湊 和雄氏 (琉球列島の動物写真家)
演題「南の島のふしぎな生きものたち」

日 時 11月21日 (日)
午後1時30分～3時40分

場 所 宮崎県総合博物館 県民文化ホール
定 員 先着400名 *申し込み不要
入場無料



撮影：新地昭彦

常設展示紹介

●動物部門●

アカウミガメ

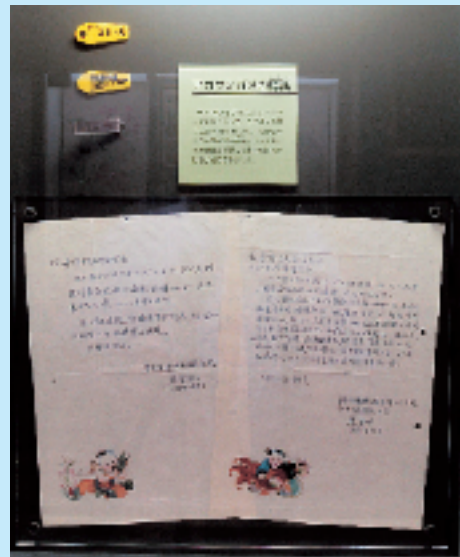
宮崎県は太平洋に面し、その海岸線は南北400kmにもおよびます。そのなかで高鍋町から宮崎市、延岡市、日南市などの砂浜海岸は、アカウミガメの貴重な産卵地となっています。赤かっ色の甲羅をしたアカウミガメは体長1m、体重150kgを超える個体もあり、5～8月に産卵のために砂浜に上陸し、1回に約100個のピンポン球のような卵を産みます。卵は約60日で孵化し、子ガメたちは海へと帰っていきます。

このコーナーでは、アカウミガメの産卵の様子と、海に帰っていく子ガメの姿をジオラマで再現するとともに、産卵に上陸したアカウミガメに着けられるタグ（標識）も展示しています。このタグは宮崎県で25年以上もアカウミガメの産卵調査を行っている、宮崎野生動物研究会が実際に使っているもので、タグを付けたアカウミガメを見つけた中国からの手紙もあわせて展示しています。

なお、近年、宮崎県の砂浜海岸では砂の流出が著しく、アカウミガメの産卵に適した場所が減少しており、砂浜を保全するための対策を早急に行わなければならない状況となっています。（末吉）



アカウミガメ展示ジオラマ



アカウミガメのタグ(左上)中国からの手紙

収蔵資料紹介

●考古部門●

「よみがえった古墳時代の鏡」

考古部門では今回、古墳時代の鏡の鑄造模型を製作しました。古墳時代の鏡も作られた当時ははっきりと顔が写っていたはずですが、博物館の展示ケースでよく見かける鏡はさびて輝きもなくなり黒っぽくなっているため鏡の表面（文様のある方が裏面）を見ても何も写りません。そこで博物館では所蔵して高鍋町持田古墳出土の画文帯神獣鏡を使って、作られた当時のままの姿を再現してみました。形や文様を砂型に反転させた表と裏の2枚の鑄型を重ね、その中に銅と錫を加えた青銅と呼ばれる合金を流し込んで作りました。鑄型からはずし表と裏をていねいに磨きあげるとピカピカに輝きます。できあがった鏡に顔を映してみると古墳時代にタイムスリップした自分の顔が写るはずですが、日向市の草場古墳から出土した八鈴鏡（鏡の周りに八つの鈴を付けた）の鑄型模型もあわせて製作しました。振ると古墳時代の鈴の音が響きます。これらの鏡の鑄造模型は今後企画展等でみなさんに紹介していきます。（永友）



鑄造模型（画文帯神獣鏡の裏）



鑄造模型の鏡の表にあざやかに映った手

企画展

観覧無料

日本自然科学写真協会写真展

期間 12/18(土)～1/30(日)

身近な鳥や昆虫、植物をはじめ、天体や山岳、自然風景などを被写体とし、それらの姿を巧みな技術で撮影した写真、それを集めた写真展が「日本自然科学写真協会写真展（略称：SSP展）」です。今回展示される写真は約100点、どの写真も私たちを引きつける魅力ある作品ばかりです。

この写真展は平成16年度で25回目となり、宮崎では初めての開催です。この機会にすばらしい作品の数々をご堪能ください。なお、本年度は、東京、大阪、京都、福岡、新潟、宮崎の6会場で開催されます。



オカダンゴムシ・誕生 武田晋一



福岡市油山のアナグマ(のおしり) 栗原智昭

日本自然科学写真協会とは

自然写真や科学写真を撮影しているプロ及びアマチュアの写真作家、写真関係の研究者と技術者、自然科学・工学・医学部門の研究者、教員、ナチュラリスト、写真・科学雑誌の編集関係者、写真関連の業界人など、多方面の方々が参画している文化団体です。

(末吉)

特別展

～街角の民俗学～

近くてなつかしい昭和展

期間 2005/2/19(土)～3/27(日)

料金：大人500(400)円 高大生300(200)円
小中生200(100)円()は20名以上団体料金

この展覧会は、昭和30年代から40年代の人々の日常生活文化を紹介するものです。会場には、映画館や理髪店、銭湯などを再現した昭和30年代の街並みやこの時期に使われた日用品・電化製品等の実物資料を展示します。また、昭和を彩った長嶋茂雄や美空ひばり、中村錦之助等のスターや子ども達を夢中にしたヒーロー・ヒロイン達を映像やパネルで紹介するコーナーや、宮崎県の昭和30年代以降の様子を映像や写真で紹介するコーナーも設置します。

私達の記憶に残る昭和の暮らしを懐かしみながら、楽しいひとときを博物館でお過ごしください。(崎田)



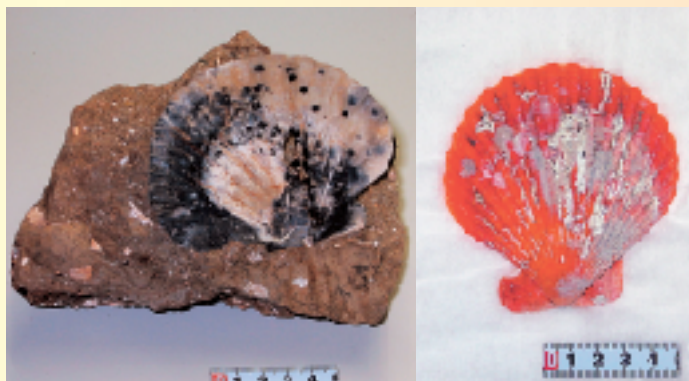
写真提供：ひばりプロダクション、©東京読売巨人軍、リキエンタープライズ、「宮本武蔵 巖流島の決闘」昭和40年 東映

博物館への問い合わせより

「この化石は何ですか？」

と、よく問い合わせがあります。その多くは宮崎層群産の貝化石です。宮崎層群とは、「鬼の洗濯岩」に代表される砂岩や泥岩などからなる地層で、今から1200万年前～150万年前の比較的新しい時代のものです。そのため、化石となっている貝も現在のものとよく似ているのです。博物館の「みんなの情報室」では、貝がらの標本を自由に見ることができ、私たちも、持ち込まれた化石とこれら標本

を比較しながら名まえを決めています。過去と現在を結ぶ架け橋ともいえるべきこれらの標本は、博物館ならではのものです。みなさんも貝の化石を見つけたら、ぜひ博物館に来て調べてみませんか。（山本）



イタヤガイのなかま 左：化石

展示解説員の声

秋は遠足などでたくさんの小中学生が来館されたり、県内外からの旅行者や家族連れで毎日にぎわっています。民俗展示室では、秋の西米良の作小屋を展示しています。作小屋では昔の暮らしぶりを、おじいさんがご家族に説明される姿や、仕事着を試着して記念撮影をされている様子をよくお見受けします。ご家族が楽しいふれあいの時間を博物館で過ごされているのを拝見すると、私たち展示解説員も嬉しく思います。

民俗展示室には他にも実物大の人形で道具の使い方を紹介していたり、3ヶ月毎に展示替えされる佐土原人形、厳かな雰囲気的神楽シアターもあります。紙芝居などの催しものも準備しています。今年の秋もぜひ宮崎県総合博物館で、宮崎の文化に触れてみてください。（解説員：新坂）



神楽シアターの前で

お知らせ

＊火曜日休館

本年度の休館日は、来館者の皆様へのサービスを充実させるため、火曜日になりました。月曜日は通常どおり開館しています。

＊臨時休館のお知らせ

展示資料の補修や機器の点検のために、下記の期間が臨時休館となります。

臨時休館日：平成17年1月31日(月)～2月2日(水)

＊博物館ホームページのご紹介

博物館のホームページでは、利用案内、常設展示の紹介、特別展や講座の案内など、情報が満載です。アクセスをお待ちしています。なお、10月よりアドレスが変わりました。

アドレス <http://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

＊『みやざき文化フェスティバル』

総合博物館、県立美術館、県立図書館、埋蔵文化財センター、県立芸術劇場の5つの施設が合同で、11月6日(土)・7日

(日)に「宮崎文化フェスティバル」を開催します。

本館では、6日に「生きものカルタ」「昔の遊び体験ひろば」「紙芝居」、7日には「紙芝居」を行いますので、ぜひお越しください。

